
あの日

梨音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日

【コード】

N3082P

【作者名】

梨音

【あらすじ】

あの日、ロボットのマユとわたしは、海辺に来ていました。

ワーオ、キラキラシテイル、

夜でした。マユとわたしは海辺に来ていました。寄せる波、返す波、ざあーっ、ざあーっ。静かな空間にそんな音だけが響く中で、マユは機械的な、妙に甲高い声でそう言いました。横を見ると、ぐるぐると目まぐるしく瞳が動いています。星を見ているのだと、わたしは気が付きました。底なしに深い闇の中で輝くそれ。マユは星を知らないのです。

あれは、星っていうのよ、とわたしは言いました。ホ、シ。そう、星。ひとは死ぬとあれになると言われているの。シ、又？

マユは死も知らないのです。わたしは砂浜に座って右手に少しばかり砂を握りました。マユの目はわたしの行動を分析し、ぎくしゃくした動きでそれを真似ます。わたしが手を弛めると、細かな砂がさらさらと線になって零れ落ちました。マユが手を開きます。ごそり、と一気に落ちる砂。顔を歪めるマユに、そういうこと、とわたしは言いました。ソウユー、コト？ そう、そういうこと。ひとに命が無くなること、ひとがものになっちゃうこと。こんなふうに。砂を握んで、落として、握んで、落として。コンナ、フーニ。繰り返しながらマユはわたしを真似ました。零れる砂。それを見ながらマユはしばらく新しい情報を分析しているようでしたが、やがてぼつりと、アカルモ、モノニナリマスカ、と訊きました。なるよ。アカルハ、シヌデスカ。うん、いつか。アカル、シヌ、ホシニナル。アカル、シヌ、モノニナル。ドツチ、ホントー、デスカ。え。わたしは黙り込むと、マユはこちらを振り向いて首を傾げました。淡く月明かりに照らされた輪郭。そうだね、どっちなんだろうね。困惑したように、首の傾き具合が大きくなります。それを見てわたしは続けました。星になると思えば星になるし、ものになると思えばそうなるんじゃない。そんなものよ、ひとの死って、たぶん。タブン、

デスカ。そう言ってマユはまたしばし沈黙し、それから思い出したようにヒト、ホシニ、ナリマス。そう、どうして。アカル、ホシ、ナツテホシー、ダカラ。わたしは微笑みありがとうと言いました。そして立ち上がりました。もう帰ろうよ、風邪引くよ、と。ロボツト、カゼ、ヒカナイデス。もう、屁理屈言わないで。へ、リクツ、ユワナイデス。まったく、そんなこと誰が教えたの？ ハカセ！ マユはそう叫ぶとキャツキャと声をあげました。どうやらいつの間にか、笑うことを覚えていたようでした。わたしもつい、つられて笑ってしまいました。

アカル、ホシ、ナツテホシー、ダカラ。

心の中でマユの声が響いて、わたしは再び、そっとありがとうを言いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3082p/>

あの日

2010年12月14日21時40分発行